

## 平成 22 年度 教育事業について

**教育委員**：大坪みはる（委員長）今井恵美子、定本高子、佐藤幸子、水内恵子、三村洋美

2010 年 4 月から教育委員は上記 6 名の新メンバーでスタートしますのでよろしくお願ひ致します。また教育事業も大幅に変更しましたので、その概略をご説明致します。

### 教育事業のあゆみ

1998 年に当学会が発足して以来、教育事業は「腎不全看護の質向上」を目標に教育研修を中心に進めて参りました。大きくは 4 年毎の理事の任期に併せて理事長の方針と会員の要望、社会の動向などを念頭に教育計画を策定してきました。1 期（1998～2001 年度）では年 1 回の教育セミナーを開催するのがやっとという体力しかありませんでしたが、第 2 期（2002～2005 年度）では 5 学会合同認定の透析療法指導看護師（DLN）、看護協会認定の透析看護認定看護師（CEN）など資格制度の誕生とともに、会員数が増加し、年 3 回の教育セミナーを開催しました。第 3 期（2006～2009 年度）では、会員の熱心な学習意欲と全国の DLN の実力向上、そして地域での学習機会への要望を受け、全国 7 地区において地区セミナーの開催、資格取得者および臨床での中堅以上の看護師を対象にした年 2 回のステップアップ研修、そして最新情報を提供する年 1 回のトピックス研修を開催してきました。特に 2009 年 7 月に刊行した「腎不全看護」は腎不全看護の専門性を高めるセルフマネジメント支援とその根拠となる看護理論に多くのページを割いています。また腎不全看護の知識の範囲も CKD からマネジメントまで幅広い領域に及んでいます。本書は当学会が DLN の試験対応として編集し、テキスト本に指定しているものです。しかし、臨床経験の長い看護師にとっては馴染みの薄い理論もあることから 2009 年度では、急遽、受験サポートとして看護理論について集中セミナーを臨時で企画し、定員を超える参加を得ました。2010 年 3 月末会員は 3181 名、DLN 資格取得者は 800 名となり、質・量ともに拡大した学会活動と全国の腎領域の看護師への学習支援が次期の課題となっています。

### 2010 年度からの教育事業の紹介

第 4 期（2010～2013 年度）の教育事業を企画するにあたり、2013 年を予測し、それに対応できる（到達しておきたい）研修となるよう考慮しました。またこれまでの経過から、開催地が遠い会員から、交通費、宿泊費など経済的負担の格差やポイントが取得しづらいというご意見をいただいています。また会員の 4 分の 1 が資格取得者であり、今後も増え続ける予想から教育事業も会員の受験支援、資格取得者のレベルアップへの支援、資格更新者の腎領域看護への貢献などを考慮し、対象別に 6 つの研修を企画しました。詳細はホームページ「教育事業」をご覧ください。

## 1) 基礎研修

全会員を対象に腎不全看護の基本的な考え方を学習することを目的に講義を組みました。「腎不全看護」を12講座に分け、3日間で集中して学習します。透析医学会の先生方や会員の皆様のご協力を得て、全国3か所で毎年開催します。その地域で参加していただければ経済的負担も軽減でき、18ポイント取得できます。受験サポートも兼ねていますので、日程を調整し、ぜひご参加ください。

## 2) 実践指導者養成研修

DLN資格取得者を対象にした新企画です。この研修では教育やマネジメントの考え方を学習し、臨床における実践指導力をアップします。

## 3) 看護研究研修

DLN資格は5年毎の更新制です。更新者には腎領域看護の実践を担う牽引者としての位置づけで、研究を通して援助の検証や開発などに貢献していただけるよう支援していく予定です。毎年学術集會に併設して研修予定です。

## 4) トピックス研修

会員および非会員の皆様に臨床に役立つ最新情報をお届けするために従来通り、年1回の開催を継続します。

## 5) 地区セミナー

全国を7地区に分けて透析療法指導看護師を中心に開催しています。回を重ねるごとにその内容も充実し、全国の腎領域に従事する看護師の学習をきめ細かに支え、その地域の看護の質向上に大きく貢献しています。

## 6) 基礎教育セミナー

毎年学術集會に併設して2～3講座開設します。大会参加者は無料で受講でき、2ポイント取得できます。

以上、継続する教育計画と新しく始める教育計画をご紹介します。

皆様のキャリアアップ計画に組み込んでいただけるよう期待しております。

教育委員会では、研修以外にも研究開発や実践に役立つ小冊子作成、各地のレポートや会員との交流など企画しています。4年後にはさらに質・量ともに向上し次の時代へ引き継げるようにIV期教育委員も努力しますが、勤務に従事しながらの学会活動ですので、ぜひ皆様のご協力をお願いする次第です。

2010年3月末日